

平成26年度 鳥取県公共事業評価委員会 質問事項等整理表

◇ 第5回(平成26年12月1日 開催)

【国道180号(福長～菅沢工区)防災・安全交付金事業】(前回委員会質問に対する回答)

質問	質問内容	回答又は処理	摘要
1	拡張便益の「公共施設・生活利便施設へのアクセス向上」便益はどのように計算しているのか？	日南町霞から日吉津村のイオンモールを想定して、今回のバイパス整備により1時間以内にアクセスできるようになることの便益を、日南町の世帯数分計上している。	
2	過去に、この委員会で評価された道路事業で、拡張便益を入れてB/Cを計算した事例はあるか？	若桜町内の春米バイパス事業で、拡張便益を入れて計算した事例がある。	
3	拡張便益の項目が増えれば増える程、便益が高くなるが、項目をどのように選定したのか？	算入できる項目を入れている。	
4	前回の説明で、日南町や日野町から米子周辺で就業や通学をしている方が1、2割位いらっしゃるとのことだったが、その便益は計算に含まれているのか？	基本便益の中で算入されている。	
5	基本3便益が0.22程度で、事業実施している案件を調べて、拡張便益の考え方を対比しながら説明してほしい。	平成23年度の審議案件の春米バイパスが基本3便益でB/C=0.22、拡張便益を含めてB/C=1.18となっている。拡張便益を算入した他の事例との対比については、次回委員会で説明する。	【宿題】

一般国道180号 (福長～菅沢工区)

平成26年度公共事業評価委員会(第6回)
説明資料

1. 小中学生通学状況

国道180号(福長～菅沢工区)



2. 拡張便益分析結果(第5回資料) 国道180号(福長～菅沢工区)

○費用便益分析結果(基本便益+拡張便益)

費用	事業費		39.89億円
	維持修繕費		1.28億円
	計(C)		41.17億円
便益	基本便益	走行時間短縮便益	6.01億円
		走行経費減少便益	2.49億円
		交通事故減少便益	0.64億円
	基本便益 計(B1)		9.14億円
	拡張便益	片側交互通行規制による時間損失	0.42億円
		異常気象時通行不能区間の解消	7.27億円
		大型車すれ違い困難区間の解消	7.41億円
		通行危険箇所の解消	6.12億円
		冬期の速度低下解消	2.25億円
		救急搬送における救命率の向上	7.64億円
		季節的に流入する観光客が受ける便益	0.07億円
		公共施設・生活利便施設へのアクセス向上	6.28億円
		CO2排出量の削減	0.07億円
		NOx排出量の削減	0.001億円
		現道対策として必要な防災対策事業費の削減	1.30億円
現道の維持管理費用の削減	1.58億円		
拡張便益 計(B2)		40.41億円	
費用便益比	基本便益 (B1/C)		0.22
	拡張便益 (B2/C)		0.98
	基本便益+拡張便益 (B/C)		1.20

※費用および便益の値は、基準年(H26)における現在価値。

3. 拡張便益算出事例(H23年度)

国道180号(福長～菅沢工区)

○国道482号(春米バイパス)費用便益分析結果(基本便益+拡張便益+間接効果)

費用	事業費		29.79億円
	維持修繕費		0.21億円
	計(C)		30.00億円
便益	基本便益	走行時間短縮便益	6.54億円
		走行経費減少便益	0.05億円
		交通事故減少便益	-0.06億円
	基本便益 計(B1)		6.53億円
	拡張便益	土砂災害等による通行止めの解消	7.68億円
		大気汚染	0.004億円
		通行危険箇所の解消	3.31億円
		異常気象時通行不能区間の解消	3.94億円
		大型車すれ違い困難区間の解消	4.02億円
		公共施設・生活利便施設へのアクセス向上	0.19億円
	緊急施設へのアクセス向上	0.28億円	
	拡張便益 計(B2)		19.42億円
	間接効果	冬期等において潜在化している買物交通等の顕在化	0.20億円
事業者産業収益の向上		5.95億円	
氷ノ山スキー場来訪者の増加効果		9.73億円	
間接効果 計(B3)		15.88億円	
費用便益比	基本便益 (B1/C)		0.22
	拡張便益 (B2/C)		0.65
	間接効果 (B3/C)		0.53
	基本便益+拡張便益+間接効果 (B/C)		1.40

※費用および便益の値は、基準年(H22)における現在価値。

4. 拡張便益分析の比較

国道180号(福長～菅沢工区)

つくよね
○国道482号春米バイパスとの対比

		効果項目	国道180号 (福長～菅沢工区)	国道482号 春米バイパス
便益	拡張 便益	片側交互通行規制による時間損失	0.42億円	
		土砂災害等による通行止めの解消		7.68億円
		異常気象時通行不能区間の解消	7.27億円	3.94億円
		大型車すれ違い困難区間の解消	7.41億円	4.02億円
		通行危険箇所の解消	6.12億円	3.31億円
		冬期の速度低下解消	2.25億円	
		救急搬送における救命率の向上	7.64億円	
		緊急施設へのアクセス向上		0.28億円
		季節的に流入する観光客が受ける便益	0.07億円	
		公共施設・生活利便施設へのアクセス向上	6.28億円	0.19億円
		CO2排出量の削減	0.07億円	0.004億円
		NOx排出量の削減	0.001億円	
		現道対策として必要な防災対策事業費の削減	1.30億円	
		現道の維持管理費用の削減	1.58億円	
	間接 効果	冬期における買物交通の顕在化		0.20億円
事業者産業収益の向上			5.95億円	
氷ノ山スキー場来訪者の増加			9.73億円	
		拡張便益+間接効果 計	40.41億円	35.30億円